葉書が，私の手元にあります．紙面に書かれたあたたかいお言葉とともに懐かしい思い出として，いつまでも大切にしたいと思います．

凝るといえば，先生の文章に対する姿勢には，本当に驚くばかりでした．原稿をもってこられて，「自分で清書しようと思うのだが，あらが見えて直したくなってきりがないから，清書してほしい」と頼まれたことがありました．実際，自分の書いた論文の原稿を先生のところにもっていくと，「まぁ座りなさい」とお茶を勧められ（年季の入ったビーカーの上に茶漉しを乗せて入れてくれるお茶です），世間話をしながら推敲が始まります．小一時間ほど文章と格闘の後，やっと1段落目が終わります．ところが小休憩の後，次の文章を直し始めた途端，「あーこりゃいかん」とまた1段落目の1行目に元に戻ります．毎日毎日，先生の部屋でお茶を飲みながら，文章を直してもらいつつ雑談するのが日課のようになっていました．大学院時代の先生との懐かしい思い出のひとつです．不肖の弟子を本当に根気よく指導していただいたと，心からありがたく思っております．

先生は，学会や水産業の発展にも積極的に貢献され，日本魚類学会評議員，同編集委員，日本水産学会九州支部評議員，水産庁中央漁業調整審議会専門委員，環境庁自然環境保全基礎調査検討会検討員，福岡県内水面漁場管理委員会委員などを歴任されました．環境庁によるいわゆるレッドデータブックの編集には，計画の当初から参画されるなど，自然環境の保全にも大いに尽力されました．

このようにお忙しい日々であったにもかかわらず，先生は常に思いやりと温情あふれるお人柄ならびに学問に対する真摯な態度で，私たち弟子の一人一人をご指導下さりました．内田恵太郎－今井貞彦－木村清朗と続く内田門下生の末弟として，先生の“魚類生活史学”に対する志を次世代に受け継いでいかなければならないと，深く感じております．木村清朗先生，本当にありがとうございました．先生から受けたさまざまな恩恵に心から感謝しつつ，謹んでご冥福をお祈り申し上げます．

（立原一憲 Katsunori Tachihara：〒903–0213 沖縄県中頭郡西原町千原1　琉球大学理学部海洋自然科学科海洋生物生産学大講座　e-mail: ktachiha@sci.u-ryukyu.ac.jp）

魚類学雑誌
56(2): 191

編集委員会からのお知らせ

現在，魚類学雑誌では紙媒体の原稿も受付けています．2010年1月からは電子原稿のみの受付けとなりますので，ご注意ください．2010年1月1日付けで有効な投稿規定は学会ホームページに掲載します．

会記・Proceedings

魚類学雑誌
56(2): 191–194

2010年度年会のお知らせ

2010年度年会の予定をお知らせします．詳細は2010年4月に出版される魚類学雑誌57巻1号に掲載します．

期　日：2010年9月23日（木）–9月26日（日）
　　23日　編集委員会・評議員会
　　24–26日　研究発表会・シンポジウム
会　場：三重県文化会館（三重県総合文化センター内）
　　〒514–0061 三重県津市一身田上津部田1234

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2010年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し，電子メールで事務局までお送りください．会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので，あらかじめご了承くださるようお願いします．セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください．

申 込 先：〒164–8639 東京都中野区南台1–15–1
　　東京大学海洋研究所　分子海洋科学分野
　　日本魚類学会庶務幹事　馬渕浩司
　　TEL: 03–5351–6396　FAX: 03–5351–6488
　　e-mail: mabuchi@ori.u-tokyo.ac.jp
必要事項：(1) 和文標題，(2) 英文標題，(3) 企画者氏名，(4) 趣旨説明（1000字以内），(5) 演者と演題，(6) 連絡先住所・氏名（電話，ファックスおよびe-mail）．なお，標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが，内容が明瞭にわかるようにしてください．ただし，実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けてください．
申込締切：2010年1月31日

2009年度年会

2009年度年会が2009年10月9日（金）–10月12日（月）に東京海洋大学品川キャンパスにおいて開催され，以下の会合があった．

1. 2009年度第2回編集委員会

10月9日（金）12:00–14:45に編集委員18名が出席して2009年度第2回編集委員会が開かれた．

2. 2009年度第1回評議員会

10月9日（金）15:00–16:45に評議員33名（他に委任状12名）が出席して開催された．議長には片野　修氏が選出された．議事は以下の通りで，報告および答申，会計規則の改正および細則の追加案を含む来年度活動方針案を原案通り採択した．(1) 2008–2009年度会務報告；(2) 2008–2009年度編集報告；(3) 2008年度決算報告，同監査報告，および2008年度前期収支報告；(4) 2009年度総会以後および2010年度活動方針；(5) 2010年度収支予算；(6) 会計規則の改正および細則の追加；(7) 第9回Indo-Pacific Fish Conference（IPFC 2013）について；(8) 自然保護委員会からの報告；(9) 標準和名検討委員会からの報告；(10) 日本魚類学会史委員会からの報告；(11) 電子情報委員会からの報告；(12) 学会賞に関する報告；(13) 男女共同参画委員会からの報告；(14) 日本分類学会連合に関する報告；(15) 自然史学会連合に関する報告；(16) 今後の年会開催予定（2010年度：三重大学；2011年度：弘前大学）；(17) その他　無し．

3. 2009年度第1回総会

10月11日（日）16:00–16:55．出席者120名．議長には片野修氏が選出された．議事は以下の通りであった．(1) 2008–2009年度会務報告；(2) 2008–2009年度編集報告；(3) 2008年度決算報告，同監査報告，および2008年度前期収支報告；(4) 2009年度総会以後および2010年度活動方針；(5) 2010年度収支予算；(6) 会計規則の改正および細則の追加；(7) 第9回Indo-Pacific Fish Conference（IPFC 2013）について；(8) 自然保護委員会からの報告；(9) 標準和名検討委員会からの報告；(10) 日本魚類学会史委員会からの報告；(11) 電子情報委員会からの報告；(12) 学会賞に関する報告；(13) 男女共同参画委員会からの報告；(14) 日本分類学会連合に関する報告；(15) 自然史学会連合に関する報告；(16) 今後の年会開催予定；(17) その他　無し．

4. 日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演

10月11日（日）17:00–17:30に日本魚類学会賞奨励賞受賞講演が行われた．論文賞は下記の2論文が受賞した．

- Kimura, S., R. Kimura and K. Ikejima. 2008. Revision of the genus *Nuchequula* with descriptions of the three new species (Perciformes: Leiognathidae). Ichthyological Research, 55(1): 22–42.
- 藤田朝彦・西野麻知子・細谷和海．2008. 魚類標本から見た琵琶湖内湖の原風景．魚類学雑誌，55(2): 77–93.

奨励賞はは馬渕浩司氏が受賞し，「分子系統解析による東アジア魚類形成史への新たな問題提議：ササノハベラ属と在来コイの研究から」のタイトルで受賞講演が行われ約150名が参加した．

5. 2009年度第2回自然保護委員会

10月11日（日）11:45–13:20に自然保護委員会委員18名が出席して2009年度第2回自然保護委員会が開かれた．

6. 研究発表会・市民公開シンポジウム

口頭発表第1会場・第2会場・ポスター発表第1–5会場に分かれて197題の研究発表が行われた．参加者は開催期間を通じて416名（内当日参加90名）であった．シンポジウム「日本在来魚における適応的分化：その実態とエコゲノミクスへの展望」，「迫り来る温暖化から魚類を救え！—魚類学者たちの挑戦—」には，それぞれ約100名が参加した．市民公開シンポジウム「国内外来魚問題の現状と課題」には，約250名が参加した．

7. 懇親会

懇親会は10月11日（日）18:00–20:00に東京海洋大学生協食堂で約300名の参加者で盛大に開催された．

8. オークション

年会会場では書籍等のオークションが行われ，44,990円の基金を得ることができた．

9. 評議員会・総会抜粋資料

会員数（2009年7月現在）

	国内	国外	計
個人会員	1075 (−79)	72 (−17)	1147 (−96)
名誉会員	4	4	8
団体会員	83 (−2)	0	83
賛助会員	1 (−1)	0	1 (−1)
購　読	61	0	61
寄　贈	5	16	21

（ ）内は2008年7月現在に対する増減

2008–2009年度編集報告

(1) 投稿論文

2008年：154篇（英文誌115篇，和文誌39篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類19；系統3；形態34；行動9；生態46；稚魚14；遺伝12；生理9；その他0

和文誌：分類11；系統0；形態1；分布4；行動1；生態9；稚魚0；遺伝2；生理2；その他9

2009年9月8日現在：85篇（英文誌49篇，和文誌36篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類8；系統4；形態4；行動6；生態11；稚魚6；遺伝5；生理5；その他0

和文誌：分類1；系統0；形態1；分布3；行動3；生態13；稚魚0；遺伝5；生理0；その他10

(2) 原稿受付から出版までに要する日数（原著論文）

英文誌（55巻1号から56巻3号まで）
受付から出版までの日数
最短期間：251日；最長期間1043日；各号の平均期間283日（56巻1号）から576日（55巻2号）
和文誌（55巻1号から56巻2号まで）
受付から出版までの日数
最短期間：115日；最長期間487日；各号の平均期間280日（55巻1号）から326日（55巻2号）

(3) 2009年1月から英文誌において電子投稿受付システムを開始した．
(4) 昨年からインパクトファクター向上のために出版日を1ケ月前倒しにするよう調整し，今年1月にこの目標を達成した．
(5) 2010年1月からの編集委員長に佐々木邦夫氏（現和文誌主任）が，和文誌主任に古屋康則氏が就任する．

2009年度年会以降の活動方針

(1) 2010–2011年度会長・副会長
2010–2011年度会長は，後藤　晃氏．2009年7–9月に行われた会長選挙の結果，次期会長に木村清志氏が選出された．副会長としての任期は2010–2011年度，会長としての任期は2012–2013年度．
(2) 2010–2011年度学会賞選考委員
井口恵一朗氏，矢部　衛氏，白井　滋氏，木村清志氏，渡辺勝敏氏
(3) 2010–2011年度庶務幹事，および会計幹事
庶務幹事：中村智幸氏，茂木正人氏，馬渕浩司氏
会計幹事：加納光樹氏，早川洋一氏
(4) 2010–2011年度会計監査
岡部　久氏，須之部友基氏
(5) 英文誌の配布方法変更に関するアンケート結果
英文誌の配布方法について国内外の個人会員にアンケートを採った結果（回答数417件），大多数の会員のご理解を得たので，個人会員への英文誌配布方法の変更を2011年度より導入する．
(6) 会員名簿の有料配布
今年度から会員名簿は希望者への有料配布（1000円／部）となる．国内外の個人会員276名（24%）から計278冊の希望があった．
(7) 英文HPの整備
海外会員から学会活動に関する情報を求める意見があること，英文誌会員が近年減少傾向にあることなどから，英文HPの内容の充実を図ることとなった．現在，英文の最終確認中で年内の公開を目指している．
(8) オンライン入会システムの導入
オンライン入会システムを年内に導入予定である．日本語を母語としない入会者に対する英文の会則・細則およびガイドラインの最終確認中である．

会計規則の改正および細則の追加について

学生会費の導入および会費未納者の研究発表申込制限に関する会計規則を改正したほか，年会発表者の入会義務化に関する細則を追加した．

2009年度第1回（通算第15回）自然保護委員会議事録

日　時：2008年7月19日（日）14:00–16:30
場　所：大阪工業大学
出席者（順不同）：細谷・瀬能・森・向井・前畑・小早川・渡辺

I. イタセンパラ・シンポの反省と今後の展開

(1) 市民へのアプローチが不足していた．
(2) 市民を意識するなら場所は淀川べりで行うべき．
(3) 総括の場があってもよかった．
(4) 特定の発言者に偏りすぎた．
(5) 学生等若い人の意見を聞く機会がなかった．
(6) 3–5年後に実証データを元に大阪で開催してはどうか．
(7) ターゲット（学生とか主婦とか）を明確にすること．
(8) 市民向けのシンポと言いつつ，演者はその立場になかったのでは．
(9) 行政に対しては後押し的に意味があった．
(10) 放流ガイドラインの説明が不足していた．
(11) イタセンパラは身近でなく，保全も行政しかできないので，市民向けではなく，土木関係者を対象としたシンポの方がよい．
(12) コメンテーターからの意見を十分に引き出せなかった．

II. イタセンパラ保全シンポの出版提案

(1) 公開できない内容があるので難しい．
(2) 再生場所によってはまだ公開できる段階にない．
(3) 執筆者の了解が必要である．
(4) アンケート調査結果については前畑がまとめる．
(5) 実現については渡辺と前畑で検討する．

III. 淀川水系におけるイタセンパラの保護と生息環境の保全に係る要請に対する回答

(1) 文化庁，淀川河川事務所，水産庁，環境省からの回答があった．
(2) 幹事会へ送付し，評議員会へ周知と学会HPへのアップを依頼する．

IV. 平成22年度公開シンポジウムに向けて

(1) 候補は「魚類のレッドデータブックかくあるべし」，「保全単位をどのように設定するか」，「ブルーギルを退治する」から選択する．
(2) テーマは「魚類レッドデータブックの現状と課題」とする．
(3) 担当者は加納，瀬能，向井，谷口（または森）とする．
(4) 科研費公開促進費を申請する（担当：加納；アドバイザー：前畑）．
(5) COP10に合わせて7月または8月に名古屋で開催する．
(6) 会場や周辺状況の情報収集を行う（担当：森）．

V. 年会時市民公開シンポジウム「国内外来種問題の現状と課題」の準備状況について

(1) 講演要旨集は未提出の演者がいるが，ほぼ完成した．

(2) 旅費は実費を立場や距離などに合わせて必要とされる人に支払う（担当：向井）.
(3) 予算はシンポジウム補助費と自然保護委員会積立金から充当する.
(4) 会場設営と懇親会の確認を行う（担当：淀）.

VI. その他

(1) パラオのサメ駆除のための法制定への対応は必要性も含めて検討する（担当：山口）.
(2) 年会時以外の自然保護委員会開催に必要な旅費を確保する（担当：瀬能）.
(3) 希少海水魚リスト作成のためのアンケート調査を進める（担当：工藤）.

2009年度第2回（通算第16回）自然保護委員会議事録

日　時：2009年10月11日（日）11:45–13:20
場　所：東京海洋大学品川キャンパス　42番講義室
出席者（順不同）：細谷・瀬能・小宮山・酒井・鈴木・丸山・山口・淀・向井・小早川・工藤・前畑・後藤・田北・中井・鬼倉・渡辺・加納・稲（東海大学出版会）

I. 市民公開シンポジウム「国内外来魚問題の現状と課題」の開催準備の最終確認

(1) 集合時間と場所，アンケート用紙・プログラム・ガイドラインの配布，懇親会の参加者数について確認した.
(2) 論点について整理し，保全のための放流に対する当委員会の統一見解について確認した.

II. シンポジウムの成果の取り扱い

(1) 出版の可否を自然保護委員会で検討した後，可能な場合は普及啓発を目的とした書籍として出版する.
(2) 複数の出版社を検討した結果，東海大学出版会の新しい叢書として，以下の条件で刊行を進める.
(2)-1 A5判で巻数を振る.
(2)-2 最低5つのテーマ（シリーズ5巻）を必要とする.
(2)-3 編集委員会（座長と委員）を組織する.
(2)-4 シンポジウムの講演者以外の専門家の執筆もありうる.
(2)-5 著作権は著者として，費用は出版会が負担する.
(2)-6 印税は初版5%，二刷り以降は10%とする.
(2)-7 著者と学会の印税は従来のとおり配分する.
(2)-8 自然保護委員会編とし，責任編集者を明記する.
(2)-9 責任編集者は自然保護委員会委員のメンバーが担う.
(2)-10 引用図等の著作権処理は著者が行う.
(2)-11 2000部の場合，本文200ページ，カラー8ページで2800円–3200円の価格帯となる.
(3)「人と田んぼと魚たち」の出版について
(3)-1 当委員会編の叢書第1巻として刊行する.
(3)-2 締切を2010年6月20日とし，執筆依頼を年会終了後に行う.
(3)-3 発行を2010年度年会時に間に合わせる.
(4)「国内外来魚問題の現状と課題」の出版について
(4)-1 出版する方向で進める.
(5)「絶体絶命の淡水魚イタセンパラ」の出版について
(5)-1 渡辺（責任編集：渡辺・前畑）を中心に検討する.

III. 今後のシンポジウム

(1) 国内外来種問題への対応の一環として，向井委員を中心に2009年度年会時にシンポジウムを企画する.
(2) 淡水魚が中心だったので海産魚をテーマとして取り上げる.
(3) MLでアイデアを出していく.

IV. 霞ヶ浦導水路事業への対応について

(1) 要望書提出も含めて引き続き検討する.

V. 希少海産魚問題検討部会の強化

(1) 委員の刷新も視野に入れ，引き続き検討する.

VI. 希少魚シリーズ

(1) 海産魚をテーマとして取り上げる.
(2) MLでアイデアを出していく.

VII. 2010年度公開シンポに向けて

(1) 配付資料に基づき，以下の説明があった.
(1)-1 開催時期：COP10に合わせて2010年7月17日（土）13:00–17:00.
(1)-2 開催場所：COP10に合わせて名古屋市内のホール（150人規模）を予定.
(1)-3 基調講演，話題提供，パネルディスカッション，コメンテーターのテーマと講演予定者の進捗.
(1)-4 後援予定団体.
(2) 科学研究費の取得を目指す.
(3) 科研費が得られなかった場合の予算措置を検討する.
(4) 目的をレッドリストの改善とし，ネガティブな面とポジティブな面の両面を出す.
(5)「魚類」をタイトルに含める.
(6) 開始時間については引き続き検討する.
(7) 開催場所（担当者：森）について確認する.